

お 泉 水

1992年3月30日

■平成3年度全国図書館大会

10月22～24日の3日間にわたり、四国・徳島市において、『21世紀に向けて図書館活動の輪を拡げよう——図書館サービスの豊かさと呼びかけをもとめて』をテーマに第77回全国図書館大会が開催された。参加者は1,633名で、本県からは10名が参加した。

第1日目は開会式・全体会があり、基調報告が行なわれ、図書館の未来を築くために、これからの10年をどう考えるべきか、21世紀までに何をしなければならぬかを問いかけるものであった。第2日目は11の分科会に分かれて各テーマにそって事例報告・研究討議がなされた。最終日の3日目の全体会では、各分科会の報告と全体討議が行なわれ、「すべての都道府県における充実した図書館振興策の策定」(第2分科会)を求める要望と、「司書養成科目の改正について」(第11分科会)の強い要望が出された。また、「公立図書館の設置及び運営に関する基準(案)」についても、図書館現場の意見が反映されていない等、きびしい意見が出された。

21世紀へ向けての図書館は、図書館員はどうあるべきかを認識させられながら、来年度開催地・愛知県へとバトンを渡し、3日間に渡る大会の幕を閉じた。

(鯖江市図書館 早苗 忍)

■平成3年度全国公共図書館研究集会

◇奉仕部門

9月26・27日の両日、奈良市で「新しい時代に応える図書館奉仕を求めて」を研究テーマに、平成3年度全国公共図書館奉仕部門研究集会が開催された。参加者は348名で、本県からは8名が出席した。

研究内容は「神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)の概要」小枚市立図書館と市内小中学校とのオンライン化計画の現状と課題」「行政区域を越えた資料の個人貸出し—埼玉県南5市のとりくみ—」「公共図書館におけるAV資料サービスの考え方と実践」についての事例発表及び研究討議であった。なお、記念講演は開催地奈良にちなんで「大和の藤ノ木古墳」(石野博信氏・榎原考古学研究所副所長)であった。

事例発表・記念講演ともに大変興味深いもので、盛会のうちに研究集会の幕は閉じた。

(福井県立図書館若狭分館 松崎 玲子)

◇整理部門

9月12・13日の両日、横浜市の神奈川県立音楽堂で「世代をつなぐ収集・保存—活用」を研究テーマに、平成3年度全国公共図書館・関東地区公共図書館協議会整理部門研

究集会が開催された。参加者は首都圏で開催されたこともあって、450名で、本県からは6名が参加した。

まず基調講演として、国立国会図書館資料保存課長安江明夫氏による「新しい資料保存の理解」というテーマで、酸性紙、フローレンスの水害を例に講演がなされた。事例発表としては、「東京都多摩地区における地域資料の収集活動」「新聞の保存のマイクロ化」、金沢文庫での「原資料保存とその活動」「資料保存の基礎技術」などがなされた。

なお、この集会の休憩時間にマリimbaによる生演奏が行なわれたのが、おもしろい趣向として印象に残った。

(三国町立図書館 大原 啓三)

◇移動図書館・企画協力事業分科会

平成3年10月31日、11月1日の両日、宇都宮市で、「生涯学習時代に対応する移動図書館の運営と協力事業のあり方」をテーマに、平成3年度全国移動図書館・協力事業研究集会が開催された。参加者は293名で本県からは1名が参加した。

研究内容は「住民と結びついた移動図書館のあり方」「全域サービスをめざし移動図書館の役割とBMの機能充実」「公民館図書室の活動に応える協力事業の現状と課題」の3分科会で、神奈川県立図書館・鳥取県立図書館・三重県の名張市立図書館・兵庫県の明石市立図書館等9館の事例発表があり研究討議が行われた。

なお、記念講演は「謎と不思議・東照宮再発見」(高藤晴俊氏・日光東照宮文庫長)であった。

(福井市立図書館 三上 達也)

■平成3年度東海北陸地区公共図書館研究集会

11月28・29日の両日、愛知芸術文化センター愛知県図書館で「図書館ネットワークについて」を研究テーマに、平成3年度東海北陸地区公共図書館研究集会が開催された。参加者は144名で、本県からは9名が参加した。

研究内容は「富山県の図書館ネットワークについて」「瑞浪市民図書館ネットワーク構想について—その現状と将来」「春日井市立図書館のオンラインネットワークについて—その現状と課題」で、事例発表と研究討議・各県のネットワークの現状についての紹介等が行われた。

なお、記念講演は「図書館ネットワークについて」(葉袋秀樹氏・図書館情報大学助教授)で、図書館ネットワークの前提・意義と問題点・諸要素・機能・政策動向等の内容であった。

閉会式において、平成4年度開催予定の本県より参加が呼びかけられた。

(芦原町立図書館 佐々木幸枝)

新設図書館紹介

— ある日の敦賀市立図書館 —

敦賀市立図書館

朝10時の開館を待ちかねた様子で、常連のお客様が飛込んでこられました。夫々自分の好みの場所がきめられているのでしょうか、思いおもしろい場所に陣取られる方々は、おとしりが多いようです。くちぐち「歳をとったら、ここに限る」などと喜んでくれますが、実際交通の便、駐車スペース、広さ等前の館に比べ、御高齢の方が過されるのに相応しい快適な場所であり、如何にも心やすらぐ、ゆったりとした雰囲気と環境です。

敦賀市立図書館は昭和52年5月に旧館が本町に開館し、多数の方々に親しまれてきましたが、図書の収容能力が小さいこと、施設が電算化に不適なこと、駐車スペースが狭いこと等から、ここ東洋町2番1号に移築を計画し、平成2年6月の起工から約1ヵ年をかけて完成し、8月1日に落成式、即日一般開館いたしました。

敷地は東洋紡績(株)敦賀工場の社宅敷地の一部でしたが、同工場の整理合理化に伴って跡地を市が買収し、ここを市の文教地域とするため、一昨秋に集会施設「プラザ萬象」を建設したのに次いで、この隣接地に昨年8月市立図書館を建設し、オープンしたものです。

施設の概要を申し上げますと、敷地面積10,856㎡、鉄筋コンクリート3階建、延3,288㎡(建築面積1,140㎡)、駐車場はプラザ萬象と共用し350台収容可能です。

1階には受付カウンターと、一般閲覧コーナー(5万冊収容の開架、36人用閲覧席)、新聞雑誌コーナー(新聞10種、ローカル紙2種、雑誌110種とソファ10席)、AVコーナー(CD 200枚、LD70枚、VTR 300本、鑑賞用テレビ4席、リスニングコーナー4席)、視覚障害者コーナー(点字本310冊、カセットテープ400本、大活字本250冊、カセットテープレコーダー2台、拡大読書機1台)のほか、移動図書館用書庫、車庫、それに事務管理関係(事務室、会議室、作業場等)が集中しています。

一方2階には、受付カウンターと小中校生閲覧コーナー(1万5千冊収容の開架と32人用閲覧席)、第1読書室(60席)、第2読書室(25席)、幼児コーナー(25人収容可)のほか、郷土資料コーナー(2千冊収容開架、1万3千冊収容可能の開架(うち3千冊収容))、2階書庫(7万冊収容可能(うち1万冊収容))があります。



3階には、第3読書室(45席)、会議室(円卓テーブル30席)、研修室(椅子席150人収容可、映写設備付)、視聴覚コンピューター室(ビデオ編集機2台、研修コーナー(30席))のほか3階書庫(5万冊収容可能)があります。以上が図書館の主なる概要です。

そろそろ子供づれのお母さん方が、2階の幼児コーナー児童書コーナーに集まって、賑わってきました。それと今日は、読書会開催の予定です。本市の読書グループは18団体210名を擁していますが、読書会は「プラザ萬象」の団体室を専属使用しています。現在会員は婦人層だけですが、これをもっと各界各層に拡げていきたいと願っています。

今ひとつ考えなくてはならないことに、開館時間の延長の問題があります。今や個人の生活に於ては、余暇の増大とともに活動時間も夜型に移行していますが、本市のような小都市では、青少年の余暇時間を健全に過ごす場所が少ないようです。この対策が急務であります。施設は新しく、広く便利に利用出来るようになりました。まずは青少年の皆さんに気軽に来てもらうことです。それには開館時間の延長しかありません。とりえず週に1回ですが、金曜日に2時間、8時迄開館時間を延長しています。

丁度今日は開館延長日。今のところ館員1名、嘱託員1名、シルバー人材派遣職員2名で対応しています。若い勤労者の皆さんから、心からの「有難う」の言葉を聞くにつけ、試行ながら夜間延長に踏み切ったことは、本当によかったと思っています。

(敦賀市立図書館 中橋 利夫)

新設図書館紹介

— 都市型図書館をめざして —

小浜市立図書館

昭和35年に建てられた図書館の老朽化が進み、数年前より新しい図書館の建設への働きが試みられていました。59年より発足した図書館建設委員会でも、現在地での建替また別の場所での建設、もしくはその頃進行していた白鬚再開発計画に加わるかの選択のため、十分な討議が繰り返されました。こういった意見の揺れる中、小浜市に県立図書館の分館が建設されるという話が先行して行っていました。図書館が未だ市民権を得ていない小浜市で、二つの図書館は不要であるなどという意見も飛び出し、市立図書館は自ら生まれ変わらざるを得ない状況でもありました。そこで小浜市はこの問題を解決する糸口を見つけるため、図書館計画施設研究所に調査を依頼し、「小浜市新図書館建設計画への提案」という報告書を作成しました。

その結果市街地再開発計画事業の中に図書館を組み込ませ、街の活性化を計っている例が他にいくつも見られること、図書館にとってもまた、多くの市民が足を運ぶ市民の生活動線上に位置し、図書館の利用を生活の中に溶け込ませることが望ましいという結論に達しました。こうして銀行が入る業務棟の4・5・6階を図書館が占める事になりました。昨年の6月に開館しまし

たが、利用者は従来の2倍を上回り好調なスタートを切りました。白鬚再開発事業は今年の秋で商業棟の完成を見ますが、その時点でいっそう市民に親しまれる交流の場として、また、生涯学習や文化活動の拠点としてこれから求められるであろう多くの機能を果すべく努力して行きたいと考えます。一昨年の10月から運行している移動図書館車も、図書館を日常的に利用できない遠隔地のお年寄りや子どもたちに大いに活用されています。これで市全域へのサービスが実施されることになりましたが、県立図書館若狭分館と連携を結び利用者の要望をしっかりと捉え市民の暮らしに役立つサービスを貫いて行きたいと思えます。

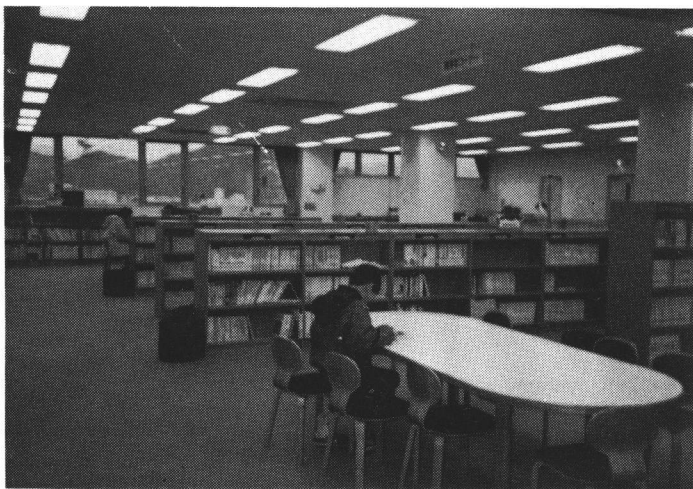
- ・小浜市立図書館の概要
建設地 小浜市白鬚112番地

| | |
|------|------------|
| 敷地面積 | 1,176.84㎡ |
| 延べ面積 | 2,103.33㎡ |
| 構造 | 鉄筋鉄骨コンクリート |
| 竣工 | 平成3年3月25日 |
| 開館 | 平成3年6月2日 |
| 総事業費 | 85,277.9万円 |

平成3年6月2日に落成式を行い、当日午後より一般開館しました。図書館は下が銀行という複合施設の上層部に位置するため、通りからも良く分かるようにサインにも工夫を凝らしています。まず一階の広々としたエントランスホールを抜けるとエレベーター2台と左手に階段があります。隣接の商業棟と橋で繋ぐ計画のある4階が図書館の導

入部になりますが、ここは市民の交流の場として活用されるべくつくられており、市民ギャラリー、映写室を合わせ持つ百席の視聴覚ホール、研修室などがこの階の半分を占めています。東側には書庫があり、2万5千冊収納の集密書架、奥に酒井家文庫を収める貴重書庫、BM作業室も一面につくられています。5階にはAVコーナーがあり、VTRブース4台、CD、CTブース各2台を備えています。

児童室（1万5千冊収納可 席数28）には低書架で仕切られたお話しコーナーがあり、ここには紙芝居台を置き自由に使えるようになっています。対面朗読室もこの階にあり有益な利用を検討中です。6階は一般開架室（2万5千冊収納可）と新設の青少年コーナーがあり、全部で37席と少なめですが貸出を中心とした運営方針に徹しています。雑誌新聞コーナー（新聞10種・雑誌50種）では窓際にソファを設け寛いだ雰囲気で見覧できるようにしています。4階から6階までは吹き抜けで、螺旋階段があり館内を空間的に繋ぎ、その構成が一目で分かるようになっています。どの階からも海に親しめる眺望が好評です。カウンターがふたつに別かれていますが、市民と身近に接しきめ細やかなサービスが出きるよう努めています。（小浜市立図書館 唐津美知子）



新設図書館紹介

勝山市立図書館新館オープン

—であい、ふれあい、ときめきのサンクチュアリーを目指して—

勝山市立図書館

勝山市立図書館は、長いあいだ勝山公民館と同居していた。その同居と別れを告げ、独立の図書館を得た。平成3年12月21日落成式、22日より図書館業務を開始した。

落成式には鳩山文部大臣からも祝電が届いた。電文に「勝山市民の皆様待望の図書館の落成おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。新しい本とのであい、人とのふれあいはより明るく豊かな町づくりに最適と存じます…」とあるように、勝山の図書館は、「より豊かな町づくりに最適」と町づくり事業の起債をうけた。

その概要は次のとおりである。

| | | | | |
|--------|---------------------|----------|----|---------|
| 位 置 | 勝山市昭和町1丁目7番28号 | | | |
| 敷地面積 | 3,769.85㎡ | | | |
| 建築構造 | 鉄筋コンクリート造、地下1階・地上2階 | | | |
| 建築面積 | 1,295.78㎡ | | | |
| 延床面積 | 2,413.10㎡ | | | |
| | 1階 | 1214.65㎡ | 2階 | 682.19㎡ |
| | 地下 | 479.06㎡ | PH | 37.20㎡ |
| 着 工 | 平成2年11月10日 | | | |
| 竣 工 | 平成3年12月5日 | | | |
| 事業費 | 1,226,250,000円 | | | |
| 設計監理管理 | (株)石本建築事務所 | | | |

ここでいうサンクチュアリーは、堅苦しい意味での聖域ではなく、「であい、ふれあい、ときめきを求めていただくなら、ここが一番の最適場所ですよ、求めにくい所から逃れて、ここでゆっくり寛いでください」ぐらいの軽い意味あいで用いている。町づくり事業のメインとなり、勝山市のシンボルとなるものとして「からくり時計」が仕掛けられている。これは建物の外側正面に設置された。日常的には大きな時計として機能するものであり、定められた時刻には、勝山市の民俗行事としての「左義長祭」のお囃子に題材をとった、人形11体が演技するものである。このような大きな仕掛け時計は福井県として、また全国の図書館として、はじめての試みである。小さな子供にとっては、夢のある、楽しい、懐かしい場所としての記憶に連なってもらえればよく、大人にとっては童心に回帰する遊び道具として、笑って見てくださればと願っている。

閲覧スペースにおいて、県下では初めて青少年のためのコーナーを配し、青少年のためのブラウジング・スペースも一般のそれとは別途に用意した。青少年とか、幼児のところであるとか、一般あるいは老年者のところとして、設定したところの使用のされかたは、実際には各自まったく自由である。各コーナーを設定したことによって、画一的な印象からくる冷たい雰囲気性が排除され、変化性に富んだ温かさが巨大な吹き抜け空間とともに強調されている。

新しい記録媒体の多様性に対処するために、AVコーナーを設け、カセットテープやカセットディスク、レーザーディスクやビデオテープの視聴ができるようにした。カウンターからの送出をやめ、各利用者の操作にまかせている。2階の視聴覚室においては、大画面による視聴が可能であり、ビデオの編集機能も備えている。

現在の蔵書数(コンピュータ登録)は約3万2千冊、おおむね市民一人当たり1冊であるが、その70%が新規購入であることから、新鮮味とともに豊富な印象を与えている。新館設立による業務開始と同時にコンピュータも導入したことにより、オープン後の貸出と返却の混雑は回避された。ブラウン方式などによってはおそらく完全麻痺に陥ったであろう。開館時間は通常10時から6時半、土・日は5時まで。休館日は祝日、第3日曜日、月曜日(第3日曜日の翌日は除く)、12月27日より1月4日、各月最後の木曜日である。

(勝山市立図書館 平泉 法祥)



談 話 室

ネットワークと図書館

本学附属図書館では、この度ワークステーションを導入しました。これまでのコンピュータ導入が、図書館業務の効率化や蔵書検索のオンライン化等が中心であったことに比べ、ワークステーションは単に計算機ではなく、コミュニケーションツールという面も兼ね備えているようです。

全国に張り巡らされているネットワークを介して、学内外のコンピュータとの直接通信ができるようになった結果、学内利用者は勿論、例えば筑波大学附属図書館のようにネットワークに接続されている図書館との電子メールによる情報交換や、ネットワーク上で常時流れている各種のニュースを読んだり、意見を投稿したりすることが机の上で可能となっています。電話やテレビと同様、遠くの人と人をつなぐ道具としてコンピュータを使うことによって、自宅からネットワークを介して直接各地の図書館に参考質問を行い、その回答もまた直接利用者に届けられるとか、図書館からは常時新着情報や催し物の案内をネットワーク上に流し、利用者は自宅でその情報を読むことができるというように、図書館間のネットワークによる連係と併せて、利用者サービス充実の一つとしてネットワークの活用も考えていく時期にきているのかも知れません。

(福井大学附属図書館 伊藤 茂夫)

利用者の性格

いつだったか、誰かが「読書とは能動的な行為だ」と言っているのを耳にしたことがある。なるほど、現に本は、読む人が表紙を開けページをめくるのを待っている。図書館にしてみれば、そのような待ちの本でいっぱいであり、借りに来てくれる人を、毎日待っているのである。それなら、図書館の利用者は、とても積極性のある人達だと言えないこともない。

そこで、本好きと言われる人達、また、時間に余裕のある人達はどんなものかよく観察してみた。前者はほんの僅かな時間でも本を開けている。忙しい主婦にあっては、時間を見つけるのではなく、どうも時間を作っているらしい。一方後者は、暇にまかせて、と言っては何だが、マイペースで読んでいる感じがする。私は学生時代、最初は後者であった。何もすることがないと本を読んでいたのを憶えている。そのうち段々癖になって、僅かな時間でも本を開けるようになり、すべき事もせず読みふけり、後で幾度もこんなことじゃいけないと思っていた。こんな私は図書館の大利用者であった。読書が良くも悪くも癖になり、図書館へ行くのも日課になっていたのである。

(福井市立図書館 西本真由美)

司書って、なあに

「こんな本入れてよ」「こんな行事もしてほしい」と住民からの声、うれしい要望。この村立図書館でも期待されていると思って、できるだけ応えようとする。でも、時々貸本屋のようになっていたり、行事屋のようになっていたりして悩むこともある。カウンター業務、本の整理、集会行事と日々追われ、司書という専門職の認識さえ希薄になりがち。

休日、書店をのぞくと新刊が書棚にずらりと顔をそろえ自分の知らない本がいかに多いか発見、どんどん売れてる本もながめてみる。変に感心したり、びっくりしたりして帰ってくる。書店の本棚には、世相の反映がつぶさに見られるような気がした。この時、うちの館の本棚を思い出し、もっと早く新刊を並べたいと思った。ふと図書館のイメージや資料を考えると、本の情報収集は選書に影響してくる事や、行事一つを取ってもいい企画を生み出すにはやはり司書として日々の研鑽以外ないのではと思う。

利用者の知的要求が高まりつつある中、もう少し先の所で探りあてられたらよかったのにと悔むことがよくある。

サービスの質が問われるこの頃、住民の学習意欲に高いアンテナがはれるようになるには、司書という自覚をもって常に学び続けること…と思いながらすぐ忘れてしまう。

(名田庄村立図書館 上中きみ子)

バレンタインデー

「お姉ちゃん、これあげる」と、お馴染みのハスキーな声と共に差し出されたのは、金色のハートのチョコレート。6年生のKちゃんだ。3年前程、「おばちゃん、これ貸して」と言って来た時、優しく微笑んで（本人はそのつもりです）「お姉ちゃんよ」と訂正しつつ本を渡したっけ。それ以来のお得意様で、いつもカウンターで少しおしゃべりしてから帰っていく。その時々によって話題は違うが、今日は義理チョコの話。「へえ～、今じゃ小学生でチョコレート贈るのか！」時代は変わった。私の小学生時代、チョコレートは特別のおやつだったし、こんなに綺麗なのもあったかしら。豊かになったというべきか。

しかし、あの小さくて、カウンターから頭がチョコンと見えていた子が、今では私とほぼ同じ身長になってしまい時々、大人びた表情も見せるようになった。Kちゃんに限らず、年々成長していく子供たち。あなたたちとの何気ない会話が、私たちにとっては、とても嬉しい事だと知っているかしら。あと十年もすると、開館当時から通って来ていた子供たちが、自分の子供をつれて来てくれるだろうと楽しみに待っています。

(金津町立図書館 田原みゆき)

福井地区大学図書館協議会研修会

6月の定例会議において決定した事業計画により、今年度は、福井工業高等専門学校が幹事校となって夏季研修会を行った。

加盟している図書館職員相互の親ぼくと郷土を知る機会として、本県の特産である越前そば作りの体験実習を8月28日(水)に行った。

当日は、30名の参加を得て今庄町農村環境改善センター内「そば道場」において、そばに関する話と各自がそれぞれ実際にそば作りに挑戦した。出来上ったそばは、多少むらはあったもののみならずの出来で、自分の作ったそばを試食し、研修会を終えた。

図書館職員として、一般的なそばに関する知識はあるかも知れないが、実際にそばをこね、切って、ゆでて作るような機会が今まで少なかったように思う。今回実際に作ってみることで、より郷土を知ることが出来たのではないだろうか。

(福井工業高等専門学校図書館 近藤 吉男)

福井県学校図書館協議会この1年(平成3年度)

- 5月15日 第1回県学校図書館協議会役員会
本年度事業計画・予算案の作成
- 5月28日 第1回県学校図書館協議会理事会 藤島高校
第2回県学校図書館協議会役員会
事業計画案・予算案
- 5月～7月 第17回県小中学校読書感想文コンクール
- 7月～10月 平成3年度文庫による読書感想文コンクール
- 7月12日 第3回県学校図書館協議会役員会
- 8月23・24日 近畿学校図書館研究大会 奈良市34名参加
平成7年度は福井で開催予定
- 9月17日 第4回県学校図書館協議会役員会
- 10月30日 第37回青少年読書感想文全国コンクール県審査会
小学校 225校 4,500編
中学校 75校 30,000編
高等学校 29校 16,000編 参加
- 11月12日 第30回県学校図書館研究大会
武生西小・武生第二中・武生工高で開催
441名参加
- 12月11日 第5回県学校図書館協議会役員会
活動刊行物「福井県の学校図書館」について
- 1月17日 第9回読書感想文コンクール県審査
- 2月27日 第2回県学校図書館協議会理事会
- 2月27日 会誌「福井県の学校図書館」第37号発行
(福井県学校図書館協議会事務局長 佐々木 徹)

福井県立大学「情報センター」誕生

平成4年4月の福井県立大学開学に伴い、今日の学術情報の増大・情報通信手段の高度化等に対応し、高度で先進的な教育研究活動を行う大学における学術情報の中心的施設として福井県立大学「情報センター」がいよいよ本格稼働いたします。情報センターは、従来の大学図書館と計算機センターを融合した新しい組織体制に基づくものであり、書誌データを作成し利用者と資料を結ぶ司書、情報教育を行うセンター教員、学内情報処理等コンピュータ部門を維持管理する職員の三者が協力しあう理想的な体制で出発します。

情報センターでは、学術情報の収集・提供機能の充実、特に国内の大学図書館との連携を図るために学術情報センターとの接続を計画しており、大学図書館ネットワークへの参加、オンライン共同目録の作成、相互貸借、各種データベースの利用をめざしています。また「開かれた大学」の理念から、学外の一般県民も図書等が利用できるよう検討しております。

キャンパスの正門からフォーラムを経て、扇形にラウンドしたシンボリックな建物、それが情報センターです。

各棟に連結された段差のないフロアと落ち着いた紺系の床CD・LDなどAV資料も楽しめる新しい空間の誕生です。
(福井県立大学設立準備事務局教務課情報係 三嶋善之)

■平成4年度研究集会および研修会(予定)

| 区 分 | 開催地 | 期 日 |
|----------------------|---------|---------------|
| 全国図書館大会 | 愛知県名古屋市 | 平成4年11月17～19日 |
| 整理部門 | 富山県富山市 | 〃 9月10・11日 |
| 奉仕部門 | 茨城県水戸市 | 〃 9月17・18日 |
| 参考事務分科会 | 福岡県福岡市 | 〃 10月1・2日 |
| 児童図書館分科会 | 青森県青森市 | 〃 10月8・9日 |
| 東海北陸地区公共図書館研究集会 | 福 井 県 | 未 定 |
| 日本図書館協会地方講習会 | 石 川 県 | 未 定 |
| 全国視聴覚教育研究大会 | 山 口 県 | 未 定 |
| 東海北陸地区視聴覚ライブラリー研究協議会 | 富 山 市 | 8月下旬 |

事務局通信

今年度は図書館建築が相次ぎました。小浜市立図書館、敦賀市立図書館の移転改築、勝山市立図書館の新築があり、また、新年度に入ると、4月には福井県立大学「情報センター」が、5月には武生市立図書館の分館「ライブハウス」が、8月には福井市立みどり図書館がそれぞれオープンします。詳しくは次回で御紹介します。

御多忙中にもかかわらず執筆いただきました方々に、厚くお礼申し上げます。